

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「死神さんと最期の一週間」

テーマ：「天使のように可愛いけど、実は死神な美少女」

キャラクター

45

ストーリー

45

テーマ(設定)

45

文章力

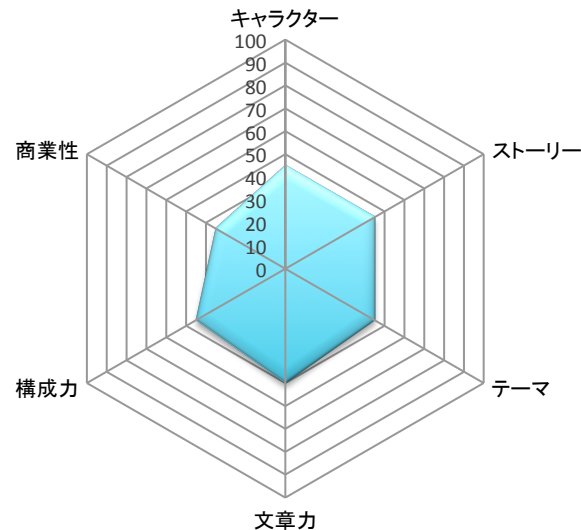
50

構成力

45

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・非常に分かり易いストーリーライン。ただ起承転結というより起承結の構成となってしまう点が若干もったいないはある。病気の子どものために野球選手がホームランをうって元気づけるという感動ストーリーはノンフィクションで実際に巨人の阿部のような実在する人物がやるからこそ面白いのであり、フィクションでやると「ご都合主義」と見なされ面白くなってしまいうため、出来れば「転」をうまく活用してフィクションならではの面白さがあればよかったのではないかと感じる。例えば野球の試合のシーンがわりとすぐに終わってしまうので、試合前の練習で腕を怪我してしまい、本番片腕一本でバットを振りホームランをとろうとする、等の「転」を作れば良かったのではないかと感じる。

・視点移動は、ストーリーやテーマなどが非常に複雑で、その複雑さを表現したいときに使う手法であるため、今回のような一本道のストーリーでは特に使うメリットはないように感じられる。一人称の視点から主人公以外の人間の心情を描写することは執筆力そのものの向上につながると思われるため、むしろできれば一人称視点での小説に果敢に挑戦してみるべきであると感じた。

合計加点ポイント 0

総得点: 265 / 600

B方式総合得点: 11704 点